

オンライン 座談会 講演会

伝統工芸用具・原材料の 持続可能な確保に向けて

～分野・業種を超えた情報共有・交流へ～

【開催趣旨】

文化庁では、伝統工芸の様々な用具・原材料が担い手の減少等によって確保し難くなってきていることから、平成29年から令和元年にかけて、現状調査のための調査や検討を行ってきました。その結果、将来的に用具・原材料を確保していくには、伝統工芸の分野や業種を超えた情報共有・交流が重要であると確認しました。

そこで、伝統工芸の技術や用具・原材料を一般にもわかりやすく紹介しつつ、その確保に関わってきた様々な分野の識者を中心に、持続的確保に向けて関係者の取り組みを促進するための意見交換を行う座談会と講演会を4回シリーズでオンライン開催します。

【開催予定】

- 第1回 座談会「漆の会」／「環境×文化」～持続可能な取り組みに向けて～
開催：2021年2月10日(水)17:30～19:00
- 第2回 座談会「金工の会」／「継承と情報共有」～次代に受け継ぐために～
開催：2021年2月24日(水)18:00～19:30
- 第3回 座談会「森林資源の会」
／「分野を超えて」～情報共有・交流の「場」づくりに向けて～
開催：2021年3月3日(水)17:30～19:00
- 第4回 講演会(講師)塩瀬隆之 京都大学総合博物館 准教授
／withコロナ時代の情報発信・つながり方
～用具・原材料の持続的確保のために～
開催：2021年3月16日(火)17:30～19:00

各回100名 * 各回申し込みが必要です(裏面をご覧ください)

オンライン座談会・講演会

～伝統工芸の用具・原材料の持続可能な確保に向けて～

第2回 座談会「金工の会」

／「継承と情報共有」～次代に受け継ぐために～

開催：2021年2月24日(水)18:00～19:30

(Zoomウェビナーによるオンライン開催)

金工(金属工芸)は、伝統工芸の中でも専門的な用具・設備や様々な原材料が必要とされますが、鋳工業など関連産業の構造変化などを背景に入手困難なものが増えています。一方、比較的長期間保管できる鋳物等が多いこともあり、昨今では、廃業する人からの保有在庫が移譲・売買される話も聞かれます。

象嵌をはじめ金工において広く行われる表面処理工程である煮色着色(煮込み・煮上げ)には、緑青と硫酸銅を銅鍋で煮立てて使用しますが、今回の座談会では、そうした緑青など金工分野で使用する原材料等を一般の人々にもわかるよう工房の現場から紹介します。そして、その持続的確保のための情報共有のあり方や、継承のために求められる仲介の役割など、今後の取り組みの促進に向けてどのようなことができるか、次代を担う若手工芸家等を中心に意見交換を展開します。

【出演者】	原 信人	伝統工芸士(煮色仕上げ・着色)
	松本 育祥	金工家 (有)堀川鋳金所
	中村 大朋	金工家
	佐藤 奈々美	金工家
	押山 元子	文化学園大学造形学部・大学院教授
	野阪 和史	着色師 銅器専門 着色工房・色政(いろまさ)
	般若 泰樹	金工家 般若鋳造所
	清水 克朗	富山大学芸術文化学部准教授

【申込先】下記URLから入力と送信をお願いします(または、文化庁HP／未来研HPから)
(職場ネット環境でアクセスできないときは、スマホ等を活用ください)

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_1Xq43bR5RJS3Kt3ff2y80g

【申込締切】2021年2月19日(金) 定員(100名)に達した場合、締切以前に締め切りますのでご注意ください。

【お問合せ先】(事務局) 公益財団法人 未来工学研究所
〒135-0033 東京都江東区深川2丁目6-11 富岡橋ビル 4F
(電話:担当直) 090-2317-9499 (代)03-5245-1011
(E-Mail) kougei.online@gmail.com (担当)関、三重野／未来工学研究所

【文化庁】<https://www.bunka.go.jp>

【未来研】<http://www.ifeng.or.jp/news/>

第2回 座談会「金工の会」

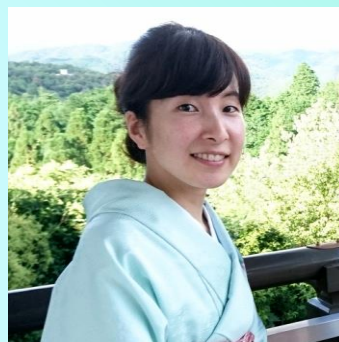
／「継承と情報共有」～次代に受け継ぐために～

出演者

1957年生まれ。金属工芸の煮色着色を生業とする。伝統工芸展などに出品する作家の煮色仕上げ、着色を請け負う。伝統工芸士。



原 信人
伝統工芸士(煮色仕上げ・着色)



日本工芸会準会員。2005年より人間国宝鍛金家奥山峰石、彫金家泉公士郎に師事。専門学校ヒコ・みづのジュエリーカレッジ卒業。第11回・第13回全国金銀創作展関東経済産業局長賞・東京都知事賞受賞。第66回日本伝統工芸展初入選。

佐藤 奈々美 金工家

中村 大朋 金工家



日本工芸会正会員、東北芸術工科大学非常勤講師。東北芸術工科大学大学院修了。2003年日本伝統工芸展、2004年伝統工芸新作展、2008年伝統工芸日本金工展に初入選、2014年第61回日本伝統工芸展出品作品宮内庁買上、2018年第47回伝統工芸日本金工展宗桂会賞受賞。

松本 育祥 金工家

(有)堀川鑄金所四代目
日本工芸会準会員。東京工芸大学卒業、堀川鑄金所にて鑄造の作業を開始。第48回東日本伝統工芸展、第55回日本伝統工芸展、第38回伝統工芸日本金工展に入選。2011年大阪伊勢丹三越・新選組-artizan-展開催、日本橋高島屋・若手工芸作家作品展参加



文化女子大学(現・文化学園大学)卒業。立教大学大学院ビジネスデザイン研究科博士課程前期修了。本学助手、講師、准教授を経て現職。日本工芸会の正会員金工部会幹事として活動に参加している。2017年文化庁文化財部調査員。

押山 元子
文化学園大学造形学部・大学院教授

着色師。家業である高岡銅器の着色を行う会社「色政」の四代目として着色師の道へ。塗料を使用しない、伝統的な、「発色」の技法に魅了され、職人としての技術修練と新色の開発に日々明け暮れている。



野阪 和史 着色師
銅器専門着色工房 色政

般若 泰樹
金工家 般若鑄造所

日本工芸会正会員、伝統工芸士。幅広い金属の知識を活かし、鉄を素材とした茶釜や銅合金を素材とした風炉などの鑄造を行っている。また、培った鑄造技術をもとに、複数の金属を交互に流し込む吹分作品の制作も行っている。



清水 克朗
富山大学芸術文化学部准教授



東京藝術大学卒業、同大学大学院美術研究科修士課程修了、同博士後期課程進学、高岡短期大学赴任のため中途退学、芸術学修士。1991年高岡短期大学助教、講師、助教授、2005年10月より現職。